

離床センサー 現場レポート！

VOL.21
Feb.2011

「離床センサーをお使いの現場から、様々な工夫をご紹介します！」

様々な位置に設置が可能で、対象者に合ったタイミングで報知する「赤外線コール」。今回はいくつかの現場で工夫された設置位置・報知タイミングをご紹介します！

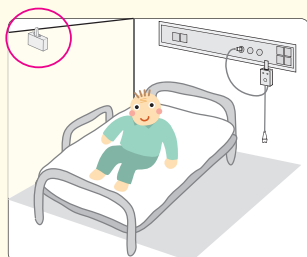
赤外線センサー工夫いろいろ

課題

ベッド上での起き上がりを検知したいが、フット/ヘッドボードでは気付いてしまう。

対策

カーテンレールに設置して、上から照射。



効果

転倒リスクが高い人の早期発見が可能に

課題

端座位の状態である時間が多く、マットタイプのセンサーが使えない。

対策

居室から出る際に絶対に通る場所に設置。
例：TV台



効果

徘徊行動の報知が可能に

課題

個室のトイレでナースコール指導をしても押ししてくれない。

対策

トイレの中に設置



効果

トイレに入る際にナースコールが鳴るので、早いタイミングで介助ができる。

課題

居室の出入口に設置したいが、取付ける場所(物)がない。

対策

棚の上に置く。
(逆さに設置しても問題ありません。また、クランプを外しての設置も可能です)



効果

徘徊行動の報知が可能に



赤外線センサーちょっとポイント！

- ①赤外線センサーと無線中継ボックスの無線通達距離は約 10m。
- ②検知範囲は、センサーから約 1.8m において、約 50 × 50cm。

この2つのポイントをおさえた上で、設置位置や角度を調整すれば、検知エリアは自由に設定が可能です。
ぜひ、現場に合った設置方法を見つけてください！

注意

反射センサー(光)と集電センサー(温度)で感知をしています。
照明や日差し、温風吹き出し口に向けて設置すると、その影響を受け、正しく報知しないことがあります。

